



四国学院同窓会会報

2019年8月

ロゴスだより 第21号

四国基督教学園・四国学院短期大学・四国学院大学・四国学院大学大学院

滋賀県支部総会

2018年9月22日

立命館大学びわこ・くさつキャンパス
(草津市)

講演 清水幸一

四国学院大学教授(1980年度社会福祉学科卒業)
『今の子どもの遊びから見えること』



2018年度 同窓会支部 総会報告

関東支部総会

2018年11月17日

アルカディア市ヶ谷
(千代田区)

講演 橋本一仁

四国学院大学教授理事(1970年度英文学科卒業)
『文化芸術活動と地域創造
～エディンバラ・フェスティバルを中心に～』
第二部として、新宿区の居酒屋にて懇親を深めました。

香川県支部総会

2018年11月18日

四国学院大学内

講演 島達夫
四国学院大学教授

『山本周五郎文芸とキリスト教—
「赤ひげ診療譚」を中心に—』



九州支部総会

2018年10月20日

ホテル臨海
(別府市)

講演 杉本孝作

四国学院大学副学長
『大学教育の将来を問う』



愛媛県支部総会

2018年11月17日

国際ホテル松山
(松山市)

講演 天野浩一

香川ベースボールアカデミー代表(2001年度人文学科卒業)
『野球王国四国』



沖縄県支部総会

2019年2月23日

沖縄県市町村自治会館(那覇市)

講演 漆原光徳
四国学院大学副学長

『健康に暮らすためのコツ
～メタボとロコモに要注意!～』



CONTENTS

2018年度支部総会報告 ..p1
2019年度支部総会案内 ..p2
同窓生からのお便り ..p4

入学生からのお便り ..p5
同窓会からのお知らせ ..p6
創立70周年記念事業 寄付金募集 ..p8

発行日/2019年8月 発行者/四国学院同窓会

〒765-0013 香川県善通寺市文京町3丁目2番23号 mail rogosu@sg-u.ac.jp

0120-459500

TEL 0877-62-5500(直通) 平日8:30~17:00 FAX 0877-63-4599

2019年度同窓会支部総会のご案内

学生会員の参加大歓迎。同窓生と触れ合える貴重な機会です。仕事につきたい業種の現状など聞いてみてはいかがでしょうか。

関西支部 結成総会

関西には既に2002年に結成された滋賀県支部と2004年に結成された大阪支部があり、支部活動を行ってまいりました。この間、滋賀・大阪以外の関西の方が参加しやすい支部名に変更してはとの意見が出ていました。同窓会本部に相談し、2018年の滋賀県支部総会に大阪支部ならびに兵庫県の同窓生にご参加いただき話し合いを重ねた結果、滋賀県支部と大阪支部を発展的に統合し、新たに近畿2府4県をエリアとする関西支部として設立することになりました。関西支部は、大学についての情報交換の場も設けてまいります。四国学院で過ごした学生生活を通して、青春を謳歌した仲間と思い出を分かち合い、学部や世代を超えた同窓生の輪を広げてまいります。同窓生がアットホームな雰囲気集える場を提供し、「交流」「連携」「親睦」を図ることで母校の更なる発展に寄与してまいります。お知り合い、ご友人をお誘いいただき支部総会へのご参加を謹んでお願い申し上げます。（関西支部結成準備会）

関西エリアを含めて
大阪支部と滋賀県支部が
一つになります

- 開催日時 2019年11月9日(土)
● 受付11:00 ● 支部総会11:30～ ● 講演会12:00～ ● 懇親会13:00～15:00 終了時間確認
- 会場 「ホテルメルパルク大阪 レストランカトレア」大阪市淀川区宮原4-2-1 TEL.06-6350-2111
- 会費 3,000円
- 返信締切 10月31日(木)



講演会 『これからの学校教育』

4年前に文部科学省から出された「高大接続改革」とともに、ここ数年の間に保育所保育指針、幼稚園教育要領、小・中・高の学習指導要領が改訂され、昨年度をもってすべてが出そろいました。ここには、今までにない、教育の在り方が示されています。それらを踏まえ、これからの教育の在り方を、考えていきたいと思います。

講師／杉本孝作 四国学院大学副学長

1972年大阪大学卒業までは大阪に在住、その後10年、東京で暮らし、1982年四国学院大学に着任。大学、大学院時代は有機合成化学が専門、現在は、大学教育、理科教育、環境教育をテーマに教育と研究を進めている。教務部長、短期大学学長事務取扱を歴任、短大の最後を看取る。現在は副学長(教学担当)を務め、学生との年齢ギャップに日々苦悩している。

高知県 支部総会

高知県支部会員の皆様にはすでにご案内させていただいておりますが、ご返信がまだの方はご連絡ください。

- 開催日時 2019年9月28日(土) 黒田若雄牧師
● 受付17:00 ● 開会礼拝17:30 (日本基督教団高知教会 学校法人四国学院評議員)
● 支部総会18:00～18:30 ● 懇親会18:30～21:00
- 会場 「リバーサイドホテル松栄」高知市天神町8-1 TEL.088-832-3211
- 会費 5,000円
- 返信締切 9月20日(金)

九州 支部総会

今年10月に佐賀県佐賀市で九州支部総会を下記のとおり開催いたします。早いもので、九州支部が設立され今年度で5回目の総会となります。今回は九州内では初めての開催地となる佐賀市での総会です。近代日本を築いた賢人たちの生きた街である佐賀市内には、偉人達のゆかりの地が各所にあり、特に佐賀城跡周辺に集中しており、歩いて巡るだけでも楽しむことができます。また、佐賀県には吉野ヶ里遺跡をはじめ、唐津城などたくさん歴史スポットがあります。かつこの地にあった佐賀城の歴史を伝える歴史館や博物館など、とにかく見どころがたくさんあります。そんな賢人たちの生きた街である佐賀市で、今年度も年代を越え母校を同じくする九州在住の同窓生の方々と親睦を深めていきたいと願っております。九州だけではなく、どなたでも気軽に参加できますので、お誘いの上、ご参加いただけますよう心よりお待ちしております。(九州支部長 黒木幹雄)

- 開催日時 2019年10月26日(土)
● 受付14:00 ● 支部総会15:00～16:00
● 講演会16:00～17:00 ● 懇親会18:00～20:00
- 会場 「ホテルグランダはがくれ」佐賀市天神2-1-36 TEL.0952-25-2212 FAX.0952-24-2727
※駐車場のご案内 250台収容(無料です) <https://www.kourituyasuragi.jp/saga/>
- 会費 ①宿泊(朝食代込)+懇親会13,000円 ②懇親会のみ6,000円
- 返信締切 9月6日(金)
- 申込 黒木幹雄 mail creditheart@mopera.net でも受け付けます。
お問い合わせ



講演会 『シェイクスピアの世界』

講師／橋本一仁 四国学院大学教授理事・リエゾンセンター長、社会学部長ほか

1971年四国学院大学英文学科卒業、1973年上智大学大学院(英米文学専攻)修士課程修了。徳島大学教員を経て、1977年四国学院大学赴任。英米演劇や国際関係科目を担当。6年間学生・市民と演劇公演活動も行う。1983年～84年ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ演劇学科客員研究員。1995年～99年四国学院大学・短期大学学長。2003年よりカルチュラル・マネジメント学科で文化芸術政策やアーツ・マネジメント科目等も担当。現在「かがわ文化芸術祭」や「さぬき映画祭」実行委員長を務め、文化芸術活動による地域創造の実践に参加している。2008年韓国韓南大学校名誉博士。2016年度香川県文化功労者受賞。著書に「現代英米演劇作品論」「エンザからエジンバラまで～演劇プロフェッサーの比較地域文化論」ほか。

四国学院同窓会ホームページでもご確認ください

各講演会は、一般の方も聴講できますので、ご友人、ご家族様と一緒にお越しください。近隣支部、勤務地や開催日にお近くにいらっしゃる等、どの支部でも参加は自由です。

1. 申込方法

- ①同封のハガキにて返信
- ②mail rogosu@sg-u.ac.jp
- ②の場合、ハガキと同様、必要項目を入れて送信ください。受信確認の返信をしますで連絡がない時は、お手数ですが、TELでご一報ください。

2. お問い合わせ

- 「四国学院同窓会事務局」
- ①0120-459-500(平日8:30～17:00)
- ②mail rogosu@sg-u.ac.jp
- 携帯電話、登録アドレスに支部総会のご案内をさせていただく場合がございます。

岡山県
支部総会

- 開催日時 2019年11月2日(土)
 - 受付15:00 ● 講演会15:15~16:30
 - 支部総会16:35~17:05 ● 懇親会17:15~19:00
- 会場 「オルガホール」岡山市北区奉還町1-7-7 TEL.086-256-7244
- 会費 3,000円
- 返信締切 10月26日(土)



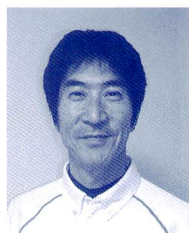
講演会 『福祉の担い手』

講師／平松正臣 ノートルダム清心女子大学教授
 1974年度四国学院大学社会福祉学科を卒業。複数の福祉施設に勤めた後、県内外の大学で福祉教育に携わる。現在は、岡山市のノートルダム清心女子大学人間生活学部教授。専門のテーマは尊厳、人権、差別の解消、自己実現等、またボランティアの分野の見識をもつ。最近では全国社協、香川県社協、高知県社協等で講演。日本基督教団倉敷教会会員。

関東
支部総会

関東支部には、学院創立当初の卒業生が沢山おられるのが特徴です。第一部、第二部とお時間の都合がつく方への参加も大歓迎です。皆様のご参加お待ちしております。(関東支部長 近藤浩基)

- 開催日時 2019年11月16日(土)
 - 受付12:30 ● 支部総会13:00~14:00 ● 講演会14:15~15:15 ● コーヒータイム15:15~16:00
- 第一部
 - 会場 「アルカディア市ヶ谷」千代田区九段北4-2-25 TEL.03-3261-9921
 - 会費 2,000円(コーヒータイム)
- 第二部
 - 懇親会17:00~19:00
 - 会場 「ミュンヘン(新宿小田急ハルク店)」新宿区西新宿1-5-1小田急ハルクB3F TEL.03-3342-5660
 - 会費 3,500円
- 返信締切 10月31日(木) ※当日の緊急連絡先は、近藤(090-2477-5763)までお願い致します。



講演会 『生涯現役 けんこうのひけつ～がんばらないでほちほちと～』

講師／片山昭彦 四国学院大学社会学部教授
 健康運動指導士会香川県支部支部長、博士(医学)、体育学修士、経営学修士(専門職MBA)、健康運動指導士(健康・体力づくり事業財団)、上級トレーニング指導者(日本トレーニング指導者協会)

徳島県
支部総会

- 開催日時 2019年11月30日(土)
 - 受付13:30 ● 講演会14:00~15:30 ● 支部総会15:40~16:00 ● 懇親会16:10~18:00
- 会場 「ホテルグランドパレス徳島」徳島市寺町本町西1-60-1 TEL.088-626-1111
- 会費 5,000円
- 返信締切 11月10日(日)



講演会 『当事者視点から考える子どもの権利』

講師／浜田知美 四国学院大学教授
 2001年(平成13年)度から、香川県初のスクールソーシャルワーカー(以下SSWer)となり、香川県教育委員会事務局非常勤職員として勤務し、パイロット校での活動、派遣SSWer、スーパーバイザーとして子どもの支援に携わる。また、2003年(平成15年)度から2012年(平成24年)度まで香川スクールソーシャルワーカー協会会長を務める。2005年に四国学院大学に着任し、スクールソーシャルワーク関係科目を主に担当している。

広島県
支部総会

前回、福山市での開催では、21名の参加者で大変盛り上がりしました。今回、広島市で開催いたします。県内外の同窓生の皆様、各々の四国学院時代に久し振りに戻ってみませんか。多数のご参加をお待ちしております。(広島県支部長 重政正明)

- 開催日時 2020年1月25日(土)
 - 受付10:30 ● 支部総会11:00~11:20 ● 講演会11:20~12:10 ● 懇親会12:20~14:00
- 会場 「ホテルセンチュリー広島」広島市南区的場町1-1-25 TEL.082-263-3111
- 会費 5,000円
- 返信締切 2020年1月11日(土)
- 申込・お問い合わせ事務局 松田範男 TEL.090-3630-9605



講演会 『多文化共生と社会福祉』

日本には195の地域と国の人々が住んでいます。ほぼ世界中の国や地域の人々が日本に住んでいるといっても過言ではありません。また、日本の総人口に占める在留外国人の割合も2%にのぼり、50人に一人が外国人という状況です。定住・永住化が進む中、外国人住民が抱える問題は多岐にわたっています。このような中で、社会福祉に何が求められているかを考えたいと思います。

講師／金永子(キム・ヨンジャ) 四国学院大学教授
 1954年10月青森市で生まれる。幼い頃に大阪へ。1981年3月大阪市立大学大学院生活科学研究科前期博士課程修了、1983年3月大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程退学、同年4月四国学院大学に赴任、現在に至る。公的扶助概論、多文化共生福祉論等を担当。本学社会福祉学部長、四国学院大学専門学校学長



梅野 明恵 1996年度 応用社会学科卒業
イスラエル国エルサレム在住

1996年度に社会学部を卒業しました。その後、本学の教養部(当時)の研究事務室助手として勤務した期間なども合わせると、約8年間お世話になりました。私の実家は長崎県の対馬という離島で、高校時代の私は「井の中の蛙」を脱したい一心で、県外の大学進学を目指し、本学に入学しました。お恥ずかしながら、「島を出る」という目的を果たした後の目標を持たず、特段のアイデア無しで大学生活をスタートさせました。幸い出会った人たちに恵まれて、サークルや学院祭事務局、新入生歓迎会実行委員などに誘っていただき、それらの活動を卒業まで楽しく(時には辛く)過ごしました。本業の学業では、3年生の時、なんとなくの興味で入った東南アジア研究室のフィールドワークでフィリピンに関わり、「国際協力」を意識するようになり、漠然と「途上国支援に関わっていきたい」と思うようになりました。今につながる大きなきっかけのひとつです。大学生、そしてその後助手として本学で過ごした時間、私は多くの「人」に出会い、その生き方や考えに触れ、影響や刺激を受けました。日本の内外に潜在する社会問題や、不条理、暴力に悲しみ怒り、何かできないかを模索しました。また、様々なバックグラウンドの人との関わりから、自分がそれまで知らなかった世界に目を開くことができました。全ての時間が、楽しいばかりではなく、時に恥ずかしく、辛く、苦しみも伴いましたが、その時間が今につながるので、愛おしく感謝の時間です。その後、希望した国際協力分野の仕事に就き、日本を出てキャリアの拠点を海外に移してから約20年経ちました。主に途上国での開発援助事業や経済協力支援の仕事に従事し、これまでカンボジア、アフガニスタン、タジキスタンなどに駐在し、



現在はパレスチナに勤務し、エルサレムに在住しております。エルサレムは、イスラエルとパレスチナがそれぞれ首都と宣言している、世界三大宗教(キリスト教、イスラム教、ユダヤ教)の聖地として有名で、世界中から観光客や巡礼者が集まります。近年、その主張などをめぐってイスラエルとパレスチナの間で衝突が絶えない、中東和平問題の中心的場所です。日本から見れば、中東は遠くの未知の異国で、あまりイメージが湧きませんが、パレスチナにとって日本は、難民支援など主要ドナーの一つですし、またユダヤ人国家であるイスラエルという国でも、かつて第二次世界大戦時、日本通過査証(いわゆる「命のビザ」)を発給し、約6000人のユダヤ人難民をホロコーストから救った「日本版シンドラのリスト」の外交官・杉原千畝が有名です。ですから親日のパレスチナ人、イスラエル人は多いのです。

こうして、島育ちの蛙は普通寺で鍛えられ、さらに大海へと出たわけですが、順風満帆とはいかないことも多々あります。今も日々、自分の知識や技術不足を痛感し、落ち込んだり開き直ったりの繰り返しです。

最後に、この機会(寄稿)に、本学でご指導・ご支援いただいた教職員の皆様、かつての同僚、そして何より貴重な時間を共に過ごした友人たちへ、なかなか会えないことの代わりに近況と感謝を伝えたいと思います。



チャレンジこそ人生 近藤 浩基 1991年度 社会学科卒業 東京都江東区在住

平成が終わり、令和となり改めて“平成”を振り返るとチャレンジの連続でした。在学中は、3年時まで硬式野球部に在籍しておりました。卒業後は、地元香川にて就職予定でしたが、北海道へバイクツーリングに行った事がきっかけで人生の舵を大きくきる事になりました。それは、夜遅くまで人々と語る機会があり、いく人かは人生に後悔していました。その殆どは、自分の可能性に自信が持てず、挑戦という道には進まなかった人達でした。当時の私は、20年後に自分を振り返った時、後悔する人間か否かと考え、確実に後悔すると思える決心をしました。それは野球に対する情熱、自分の可能性を信じ継続し、プロの世界へ行くというチャレンジでした。ただ、当時の日本はプロ野球か社会人野球のみで、今のようなクラブチームも存在せず、しかも、硬式野球部途中退部ですので、誰かに頼る事も出来ない状況でした。その時、日本に環境がないのならメジャーリーグを頂点とする強大なピラミッド組織のあるアメリカへ行くという決断をしました。今と違って、インターネット検索も無い時代ですので、自分で行動し情報収集する時代だからこそ、

出来たのだと思います。91年の秋、渡米しロスアンゼルスからスタートしました。殆ど英会話が出来ない状態での渡米、この時程、母に言われ続けた挨拶と笑顔の重要性を再認識しました。人種も言語も多様な国では、挨拶と笑顔は共通言語でした。この経験が、今、外資系金融機関で働く自分の土台となっております。野球の方は、現地で知り合った方々の紹介により、日系人リーグ、メキシカンリーグ、にて研鑽しカナダの独立リーグのトライアウト(入団テスト)を経て、契約しました。なかなか、活躍する機会はなく、コーチとして残るか解雇かの選択を受け、一つの区切りとして退団し帰国しました。余談ですが、上記の日系人チームと出会った事が、後に妻と結婚するきっかけとなりました。最後にお伝えしたいのは、自分に夢があり、チャレンジ出来る環境があるのなら、是非とも一回の人生、夢に向かうことを応援します。現在、四国学院大学同窓会関東支部にて支部長をしております。まだまだ伝えたいことはありますので関心のある方は、11月の関東支部同窓会にてお待ちしております。このような機会を頂きました事に感謝申し上げます。



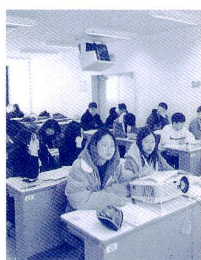
2019年度 入学生のお母さんより

「香川の大学に行くけん」「もう決めた」娘が高校2年生の夏休みに言い出した。

私は咄嗟に合格したらねと答えた、何故ならまさか合格するとは思っていなかったからです。長崎県から父親の転勤で滋賀県に、引っ越したのは、娘が6歳の時でした。方言の違いから同級生に仲間外れにされたことや担任の先生から、滋賀の言葉を覚えて、話してと怒られたことがあり、知らない土地で大学に行くのは、不安で自宅から通える範囲の大学に行かせようと思っていたからです。親の心配をよそに、四国学院大学に合格しました。初めての一人暮らし、大学のキャンパス内の寮に入ることになりました。「ママがいい」と言って、私から離れようとしなかった小さな娘は大学生へ成長し巣立ちます。4年間ですが離ればなれは寂しいけれど保育士になりたいと言う娘を

応援したい。毎週仕事が休みの時には、香川に行こうと思います。大学の先生方がいい人でありますように、同級生や先輩方が優しい人でありますように、寮の方々がいい人でありますように、私は祈ります。入学式まで私はロゴス館で娘と過ごしました。時には泣き、時には笑いながら会話が弾み、このまま時よ止まれと心で叫びました。入学式桜の木の下でキラキラ輝いている新入生のなかに娘がいました。ロゴス館からキャンパス内が見えるのですが、何となく私も娘と同じ大学生になった気分になり嬉しくなりました。これから先、幾多の困難に立ち向かっていく娘へお母さんはいつも応援しています。忘れないでね。うどんが大好きな娘よ、お母さんはうどんより、貴方に逢いに行きますよ。2019年新生の皆様ご入学おめでとうございます、無事に卒業し夢を叶えて下さい。

【第22回日本語集中研修を実施】



本学日本語教員養成課程では、2019年2月8日(金)から2月22日(金)まで日本語集中研修を開催しました。今回は本学と姉妹校を締結している韓南大学校から19名の学生が参加しました。

2週間にわたるプログラムでは、午前中は日本語・日本文化の授業、

田中 千恵子 日本語教員養成課程ディレクター・教授

午後は文化体験研修を行いました。従来の小学生との交流、伝承遊び、金丸座見学、掛け軸、煎茶道等に加え、今回も本学の演劇教育カリキュラムとの連携で、昨年度初めて実施した「桃太郎創作演劇」を取り入れました。県外での研修としては関西方面へ赴き、日本文化や歴史を学ぶ視察など充実した諸活動を行いました。

なお、この日本語集中研修プログラムは、同時に、本学の学生が履修する日本語教員養成プログラムの一環にもなっています。日本語教員養成プログラムとして、本学履修生18名と留学生5名が本研修のカリキュラム準備ならびにプログラム全般の運営に携わりました。ここに、教壇実習を行った課程履修生のレポートを紹介致します。日韓交流の和と輪を感じていただけたら幸いです。



今回の集中研修では、初めて教壇実習を2つ行った。1つは、文化の「伝承遊び」の授業で元々どういふものか決まっていたが、もう1つの初級の「写真を見て」という日本語の授業は一から作らなければならなかったため、想像以上に大変なものであった。どういふ授業をすれば日本語の能力を向上させることができるのか、何が日本でしかできないことなのか、ということを考えることが一番難しかったように感じる。また、初めから自分たちで決めないといけないうえ、想像もすることができなかった。

そして、大まかな授業内容を定めることが出来ていなかったため、細かい部分に取り掛かるのにも時間がかかってしまっていた。しかし、実際に1日目授業が始まってみると、説明などはあまり問題なく、研修生の理解度を見ながら進めることが出来た。研修前に韓国で携帯を壊してしまっていた研修生がいて、準備した写真がなかったが、そこも臨機応変に対応することが出来た。また、ワークシートに分からない部分を韓国語で書いていた研修生が多かったが、1人1人カタカナに直したり、韓国語

奥田 このみ 4年社会学部カルチュラル・マネジメント学科

を今まで勉強してきたことが役に立って達成感を感じることができた。2日目は日本人との練習の時間を設けたが、細かい時間配分を決められていなくて、最初の方に少し変更する部分が多くなってしまったりしたが、研修生たちも日本人と楽しそうに練習ができていた。しかし、授業中に先生に指摘されたときに少し焦ってしまったので、対応力も必要だと感じた。3日目の紹介ビデオの撮影は、初級の研修生みんな練習してくれていて、スムーズに行うことができた。また、楽しかったという声も聞けて、失敗ではなかったと感じた。伝承遊びの方の授業は、実際にけん玉などをプレゼントし、一番最後の授業ということもあって、楽しみながら行うことができた。しかし、予定していた授業の時間よりも5分ほど早く終わってしまったため、もっと授業内容を増やしておく必要があったと感じた。

今回の集中研修は、教壇実習をするということもあり、昨年度より研修生と関わる機会も多くなった。初級の研修生でも、日本語で会話するのはほとんど問題がなく驚いた。話をした研修生にいつから勉強を始めたか、という質問をしたが、ほとんどの研修生が大学生になってからと言っていたのでそれにも驚いた。全員とできたわけではないが、仲良くなった研修生とは色々な話もできて、私自身も勉強になることが多かった。来年は私たちの代が一番上ということもあり、もっとしっかり研修生と関わり、今回感じた授業の反省を次に向けて改善していきたい。

◆◆同窓会からのお知らせ◆◆

四国学院大学 学生課外活動支援

四国学院同窓会では、全国大会出場を果たした団体(個人)に対し、寄付および支援金支給により学生の頑張りを応援しています。お住まいの近くで試合がありましたら、温かいご声援をよろしくお願いたします。

2018年度 会報発行以降

- 2018年 9月 2018アジア大会サッカートーナメント U-19全日本大学選抜
- 2018年12月 第67回全日本大学サッカー選手権大会出場
- 2019年 6月 第72回西日本学生陸上競技対校選手権大会出場
- 2019年 8月 第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場

2019年度 主な同窓会活動

- 1 同窓生支援制度の実施
 - ①「四国学院同窓会同窓生子弟・兄弟姉妹入学金支援制度」
 - ②「四国学院同窓会同窓生の卒業後教育支援制度」
 - ③「卒業証明書等発行手続き、大学施設借用手続き代行」
- 2 ホームカミングの支援
- 3 四国学院大学
学生課外活動団体(個人)への支援
- 4 大学の企画・プロジェクトへの協力・提携
- 5 就職支援
- 6 支部総会・総会の開催
- 7 同窓会会報「ロゴスだより」の発刊
- 8 ロゴス館(同窓会館)の運営 等

四国学院同窓会 会費納入のお願い

同窓生の皆様におかれましては、同窓会活動にご支援を賜りまして、深く感謝を申し上げます。同窓会活動運営は、会費により成り立っております。皆様からお預かりした会費をいかに有効につかわせていただくかを考え活動しております。しかしながら、年々増える同窓生数により、将来的に同窓会財政が厳しい状況になってきております。

過去を調べてみますと、1981年度以前の卒業生は年会費500円、1982から1990年度は年会費1000円で10年分の徴収がされてきました。ついては、会費有効期間が満了しておられる1990年度以前の卒業生に、会費納入のお願いをさせていただくことといたしました。

同窓生お一人お一人のご理解とご協力をよろしくお願申し上げます。

■対象者と納付額

①1990年度以前の卒業生	25,000円(終身会費のみ)
②1991年度以降の卒業生で会費を納めていない方	30,000円 (入会金5,000円、終身会費25,000円)

■振込方法

同封の「払込取扱票」にてお願いたします。通信欄に、卒業年度・学科・旧姓もお書き添えくださるようお願いいたします。

※同窓会会費をすでに納めているか疑問の方はお問合せください。
(入金済の方で振込票が同封されている場合は、ご了承ください)

※会費納入が重複した場合を除いて、一旦納入した会費は原則として返還はできません。寄附金とさせていただきます。

※同窓会会費未納の方は、各種同窓生支援制度等の対象となりません。

四国学院同窓会 同窓生支援制度のご紹介

1. 四国学院同窓会同窓生子弟・兄弟姉妹入学金支援制度
同窓生および関係者の経済的支援を図り、同窓生本人、同窓生本人の父母・子・兄弟姉妹・祖父母・孫が入学する場合、入学金を全額免除する。
2. 四国学院同窓会同窓生の卒業後教育支援制度
四国学院大学では同窓生の学習意欲を応援しています。教員免許など資格の取得を目標にしていたが、卒業までに必要な単位を修得することが出来ず、改めて資格の取得を目指そうと考えている方、教養を身につけたいと考えている方のために設けられている制度です。卒業後、教員免許を取得されている方もおられます。

- | | |
|----------------------------|--------------|
| ① 学部科目等履修生の登録料を免除する | 20,000円免除 |
| ② 学部科目の科目等履修料を1単位毎に半額に減額する | 1単位 5,000円減額 |
| ③ 学部科目の聴講料を1単位毎に半額に減額する | 1単位 5,000円減額 |

内容

四国基督教学園、四国学院短期大学、四国学院大学、四国学院大学院を卒業した方で、学部科目等履修生または学部科目聴講生として登録した者は、免除および減額します。ただし、四国学院大学院生として在籍している者は、対象から除きます。

住所変更届のお願い

四国学院大学の催し、各種同窓会等の案内をいたします。“転居先不明”で本会に郵便物が返送されてくる悲しいことになりませんように、ご自身で変更届をしてください。

2019年度 第58回 四国学院大学祭

開催日
11月17日(日)

問合せ先
四国学院大学大学祭実行委員会
4gaku.fes@gmail.com



学科同窓会を開催しませんか？

「同窓会を開きたい」と、沢山、連絡をいただくようになりました。四国学院同窓会活動の一つに「ホームカミングの支援」があります。同窓会をお考えの団体は、本部同窓会までご一報ください。情報提供を望まない方については、連絡先を空欄にする対応ができますのでご連絡ください。

『ロゴスだより』に載せる「同窓会しました!」「同窓会します!」の原稿もお待ちしています。4月末日までにお寄せください。

(同窓会事務局)

ロゴス館(同窓会館)のご案内

【無料開放日】2019年10月18日・19日/11月16日(受付9月末日迄)
【休館日予定】8月13日~15日/12月30日~1月4日



ロゴス館
全景



2階 洋室
(6人、10人各1室)
1人1,500円/1泊
共用のシャワー棟



3階 個室
(4室)
1室 4,000円/1泊
お風呂・トイレ付
(タオル・浴衣有)



ホール
(約40席)



2階 和室
(8人程度 2室)
1人1,500円/1泊
共用のシャワー棟



3階 和室
(4人2室)
1室 9,000円/1泊
お風呂・トイレ付
(タオル・浴衣有)

※10月18日、19日は、多数の予約が見込まれるため、同窓会総会に出席の方に限らせていただきます。
また、2階使用につきましては、予約状況によって、相部屋となる場合がありますのでご了承ください。

【お問い合わせ・申込】四国学院同窓会事務局 ※ホームページから申込ができます。



図書館の利用について

同窓生もご利用いただけます。同窓生の著書も置くことができます。(寄贈 内容確認必要)
<https://www.sg-u.ac.jp/outline/library/>



各支部への連絡がダイレクトになります

支部活動について、ご要望・ご意見等ございましたらお寄せください。

■各支部連絡先

メールアドレス

香川県支部 kagawa@sg-dosokai.jpn.org

愛媛県支部 ehime@sg-dosokai.jpn.org

高知県支部 kochi@sg-dosokai.jpn.org

徳島県支部 tokushima@sg-dosokai.jpn.org

広島県支部 hiroshima@sg-dosokai.jpn.org

岡山県支部 okayama@sg-dosokai.jpn.org

関西支部 kansai@sg-dosokai.jpn.org

関東支部 kanto@sg-dosokai.jpn.org

九州支部 kyushu@sg-dosokai.jpn.org

沖縄県支部 okinawa@sg-dosokai.jpn.org

同窓会封筒 広告募集

四国学院同窓会使用の角2封筒に広告を載せてみませんか?
同窓会員が関係する会社・団体なら申請できます。
申請内容を確認し役員会が掲載を決定いたします。

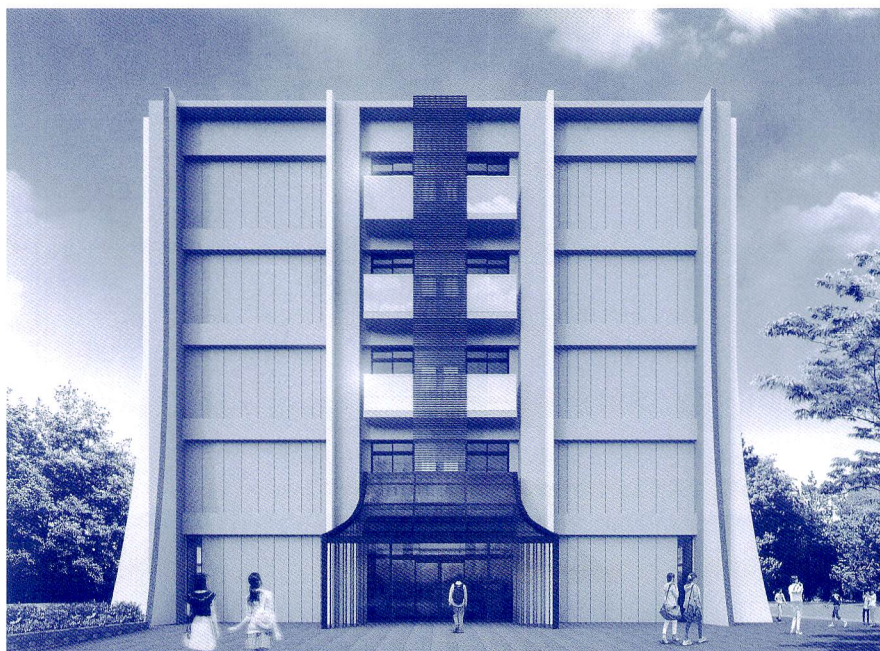
2020年度使用 角2封筒(印刷部数/約20,000枚)
広告サイズ 縦6cm×横8cm
掲載料/50,000円

【お問い合わせ・申込】四国学院同窓会事務局



創立70周年記念事業 寄付金募集について

2021年春建設予定の新学生寮をはじめとした、建設設備および教育研究体制の充実のため、
創立70周年記念事業の寄付金募集を行います。
同窓生の皆様方におきましても、是非ご協力の程よろしく願いいたします。



創立70周年記念事業寄付金募集要綱

目的：創立70周年記念事業施設・設備の充実、教育研究体制の充実

用途：①建設・設備充実資金／学生寮(新築)、多目的アトリウム(新築)、学生会館(改修)

②教育研究体制の充実／奨学・留学資金、教育研究機器購入、図書購入費、その他教育研究の充実費、
運動・課外活動施設の整備・充実

※送金方法等詳細については、お手数をおかけいたしますが、大学ホームページにてご確認をいただけますようよろしくお願いいたします。

四国学院大学ホームページ「募金事業」 <https://www.sg-u.ac.jp/fund/>

同窓会員様からの3万円以上のご寄付に対しましては、寄付者銘板を作成し、新学生寮内に顕彰させていただきます。

同窓生の皆様へ 四国学院同窓会 会長 山本 宏

同窓生の皆様におかれましては、四国学院同窓会活動にご理解とご支援を賜わりまして深く感謝を申し上げます。

学校法人四国学院は、70年という歴史を重ねてまいりました。

同窓会活動の一つであります“母校の発展に寄与する”事の一つとして、ご理解をいただき、

母校に思いを寄せていただければ幸いです。ご支援をよろしくお願い申し上げます。